

社会保障制度の今後の在り方について考えよう

社会 第3学年

津幡町立津幡中学校

1 事例の概要

津幡中学校では、「意欲を持って主体的に学ぶ生徒の育成」—『活用力』の向上をめざして—という研究主題のもと、授業実践に取り組んでいる。思考・判断したことは表現してこそ伝わるという考えから、今年度は特に表現力の育成に重点を置いた。

授業づくりとしては、次のことを共通理解し、取り組んできた。

- ・単元計画のなかに習得したことを活用する学習活動を意識して設定すること
- ・課題解決型の授業を組み立てること
- ・「学び合い」の場（生徒一人ひとりが課題に対する考えを持ち、互いが関わりあうことで個々の学びを深めることができる場）を大切にしていくこと
- ・よりよい表現力の手だてとして、理由・根拠を挙げて表現するようにさせること

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・租税の意義と役割、少子高齢社会や経済上の諸課題に関心を持ち、意欲的に追究しようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている役割や問題点について多面的・多角的に考え、さまざまな観点や立場から判断することができる。
(社会的な思考・判断)
- ・社会保障や経済に関する資料を集め活用して自分の考えをまとめたり、分かりやすく発表をしたりすることができる。
(資料活用の技能・表現)
- ・国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしていることらについてそのあらましを租税と財政、社会保障、公害と環境を通して理解し、その知識を身につけることができる。
(社会的事象についての知識・理解)

(2) 指導上の工夫点

「活用力」（特に「表現力」）を高める工夫としては、資料に基づいて現状を認識した上で、社会保障制度の充実のために国や地方公共団体が果たすべき役割について考え、自分の意見の根拠を明確にして発表し合う場を設定する。さらに定年退職した方へのインタビューを通じて、社会保障がお金だけではないことに気づかせ、考えを深める場を設定する。

3 指導の実際

配時	生徒の学習活動	教師の支援 (☆) と評価 (◎)
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習活動を振り返り本時の課題を確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 社会保障制度の今後の在り方について考えよう </div>	
追究する	<ul style="list-style-type: none"> 外国の社会保障制度の違いを調べ、わかったことを発表する。 アメリカとスウェーデンの社会保障制度のメリット、デメリットについて調べ、表にまとめる。 日本の社会保障制度は、今後拡大して行くべきか(スウェーデン型)、縮小していくべきか(アメリカ型)を考え、自分の考えを記入する。 ネームプレートを使い、自分の意見を黒板で示す。 それぞれ根拠を明確にして意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆アメリカとスウェーデンの社会保障制度を、ロールプレイ形式で理解させる。 ☆資料パネルを使って2つの国の社会保障制度を比較する表にまとめる。 ☆キーワードを示して考えを深めさせる。 ・左右に伸びる矢印上にネームプレートを貼らせ、他の考えが見られるようにする。
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換後の自分の意見を記入し、振り返りをする。 ・高齢者にとって生きがいのある社会とはどのようなものなのか、定年退職した方へのインタビュービデオを見て考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変容や深化した点に着目し記入させる。 ◎自分の考えを深めることができている。 (社会的な思考・判断) ☆高齢者へのインタビュー映像から、お金だけではないことに気づかせる。 ・津幡町で行われている高齢者福祉の政策についても知らせる。 ・自分たちにも関わられる分野であることを確認する。

C-1 指導案

C-2 ワークシート

4 成果と課題

(1) 成果

社会科の授業の流れを共通してパターン化し、「調べよう」「考えよう」「まとめ」の3段階で授業実践を積み重ねてきた。また、社会的事象の事実認識をした上で、今後どうしていくべきか・どちらがより良い姿か等の判断を迫り、思考を促してきた。その結果、資料から読み取る力やそれを元に考える力は育ってきている。

また、自分の意見を文章で表現し、それをクラス内で交流することでさらに自分の意見をふくらませる作業も積極的に取り入れてきた。本実践でも事実に基づき将来はどうしていくべきかについてさまざまな意見が交流された。どの意見も事実に基づいた理由と将来の願いがこめられた意見になっていた。

まとめる場面で高齢者の方々がどのような思いで暮らしているのかを聞いたことで、自分の考えを見直したり、深めたりすることもできた。

(2) 課題

意見を発表する活動では、どうしても相手を意識した声の大きさなどが大切である。「追求する」場面で取り入れたロールプレイは、しっかりと大きな声で演じることができていたが、自分の意見発表の場面では、発言することに自信を持っている生徒が積極的に発言していた。もっと多くの生徒がそのような場면을体験し、表現力が向上するよう支援していきたい。